



本学独自の新たな奨学金 「大学院生修学奨学金」授与式を開催

6月10日(水)、本学独自の新たな奨学金である「お茶の水女子大学大学院生修学奨学金」の授与式がおこなわれました。この奨学金制度は、お茶の水女子大学(新制大学)創立60周年を記念して、学生の修学支援を目的とした寄附金事業の一つとして創設されたものです。

奨学金の目的は、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科に在籍する学生で、経済的理由により修学が困難な学生に対し奨学金を授与することにより、大学院における修学及び研究生生活を支援することを目的とした奨学金で、今年が最初の授与となります。

平成21年度においては、大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻1名、博士後期課程ジェンダー学際研究専攻1名、博士後期課程人間発達科学専攻1名の計3名の大学院生に贈られました。

授与式は、研究科長等関係の教員臨席のもと、3名の受賞者に対して羽入佐和子学長から一人ひとり賞状と奨学金が手渡され、お祝いと励ましの言葉が述べられました。

なお、受賞の対象となる者は、本学大学院博士前期課程及び後期課程の1年次に在籍する学生で、経済的理由により修学が困難(授業料の全額又は半額免除の資格を有する者)であり、学業成績が優秀で、かつ、次のいずれかに該当する者です。

- (1) 寄附者が指定する大学院の課程等に学んでいる者
- (2) 大学院修了後に幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員及び養護教員の職を強い志を持って目指す者

支援する奨学金の額は、大学院博士前期課程100万円(1年につき50万円とし、2年間支給)、大学院博士後期課程100万円(1年目40万円、2年目及び3年目は30万円)です。

中間目標期間に係る業務実績の評価結果について

平成21年3月26日、国立大学法人評価委員会から「中期目標期間の業務の実績に関する評価の結果」が公表されました。この評価は、平成16年度から19年度までの4年間の中期目標の達成状況評価で、I「教育研究等の質の向上の状況」の目標についての3項目と、II「業務運営・財務内容等の状況」に関する4項目の評価がされています。

本学は、評価対象となった90法人の中で、「教育」では上位11法人内に、「研究」では上位3法人、「その他(社会連携・国際交流等)」では上位2法人のうちに位置づけられ、全体として国立大学法人の中ではきわめて高い評価を得ました。

特色ある例として、とくに本学の6事例が紹介されています。

例えば、「教育の成果」として高大連携特別選抜等が、「研究実施体制等の整備」として女性教員数の増加、「国際交流、国際貢献の推進」として五女子大学コンソーシアムの活動が紹介されているほか、教員の欠員ポストをすべて学長手持ちとして「ターゲット型採用」を実施している点、企画経営統括本部における業務運営の効率化の実施とウェブサイトでの公表、「危機管理マニュアル」を作成して全学的連絡体制を確立している点が「危機管理への対応」の例として特記されています。

「非常に優れている」 (5段階中最上位) 3項目(研究、社会連携・国際交流、業務運営)
 「良好」 (5段階中2番目) 3項目(教育、財務、自己点検・評価・情報提供)
 「おおむね良好」 (5段階中3番目) 1項目(その他業務運営)

これらの評定は、各法人の中期目標・中期計画に則して行うものですが、下記の表のとおり、全国の国立大学法人のなかでも、特筆すべき評価にあるといえます。

	教育	研究	社会連携 国際交流	業務運営	財務内容	自己点検 評価 情報提供	その他 業務運営
非常に優れている	1法人	3法人	2法人	11法人	3法人	2法人	2法人
良好	10法人	27法人	34法人	56法人	83法人	84法人	75法人
おおむね良好	79法人	60法人	54法人	18法人	1法人	2法人	11法人
不十分	0法人	0法人	0法人	5法人	3法人	2法人	2法人
重大な改善事項あり	0法人	0法人	0法人	0法人	0法人	0法人	0法人

『日刊工業新聞』(3月27日朝刊)では「お茶大が健闘」と本学の名を挙げ、「非常に優れている」との評価項目を得た大学名を掲載しています。

お茶大：3項目
 東工大：2項目
 その他の15大学：1項目
 情報・システム研究機構：2項目
 高エネルギー加速器研究機構：1項目

また、『朝日新聞』(3月30日朝刊)には、「国立大学の中期目標達成状況の評価」一覧が掲載されています。本学が高い評価をえられた理由は、下記の点にあると考えます。

- A. 中期目標・計画が適切且つユニークであったこと
- B. 目標を達成するために学長が強いリーダーシップを発揮したこと
- C. その結果、全学を挙げて目標に向かって取り組みを行ったこと
- D. 目標達成のための改革を速いスピードで行ったこと